

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域の活動を発信し、仲間の活動がより活性化していく事業
事業主体 (連絡先)	笑ったり寄ったり
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	502,441 円

事業内容

- 1、ホームページ立ち上げ  
地域の紹介 仲間の活動・取り組みの様子・加工への思い、こだわりなど組み込み掲載発信することができた。
- 2、横浜反町東横フラワー緑道フェスタで南信州物産展参加  
長野原のシニア世代のグループ(野菜の会・そばの会・竹宵の会・笑ったり寄ったり)竜丘自治会・鷲流峡復活プロジェクトメンバーが協力し横浜反町東横緑道フェスタに27名が参加し、竹灯籠の展示と南信州の物産展を展開した。



【横浜物産展の様

【目標・ねらい】

事業効果

- ①1、ホームページでの発信・長野原地域の様子・シニア世代の活動・笑ったりよつたりの活動を県内外にホームページで発信できた。  
長野原の活動の様子など載せたことで繋がりが深まり、地域が活性化できた。
- 2、横浜反町東横フラワー緑道フェスタ南信州物産展参加  
地域の仲間が一つの活動に協力態勢で向かえたことの反響は大きく、竹灯籠の見学、物産展への顔だしなど(200名位)の横浜市民の方に喜んでいただけた。
- 3、シニア世代のグループ(そばの会・野菜の会・鷲流峡プロジェクト・竹宵の会)地域の仲間が協力して新たな活動の展開もできた。(メンマ作り・南信州物産展)。
- 4、長野原の活動の情報が(新聞、ニュース、口コミ等)流れ、新たな加入者も増え(竹宵の会・鷲流峡復活プロジェクト等)34名~40名となる。

- ①長野原のシニア世代のよりよい活動を多くの方に知って頂く
- ②他県との交流を通して長野原・竜丘地区の活性化につなげる

※自己評価【A】

【理由】  
ホームページにより長野原・竜丘の地域と仲間の活動が発信できたことから活性化に繋がっている。  
横浜との交流から姉妹都市の話も持ち上がり展開が広まっていこうとしている。

今後の取り組み

- ・都市と農村との交流  
竹灯籠展示・物産展が好評であった事から横浜の新聞に載り、横浜より姉妹都市の話が持ち上がる。反町からも物産展に2回参加要請が来る。今後行くだけでなく横浜からも来飯し農村体験をして飯田の良さも伝えたい。ひいては姉妹都市に向け発展できたらうれしく思うのでまず足がかりに交流を増やす取り組みをする。
- ・昔から伝わる食文化を広めたい  
飯田の食文化、昔から伝わる味をまずは地域の方に口に頂き将来に伝えていきたい。チラシで地域の良さをふくめた安心安全な田舎の食文化も広く発信していきたい。